

# 令和3年度 郡山看護専門学校 学校評価 概要 【看護学科】

学則第40条及び学校評価規程に基づき、本校の教育活動その他学校運営に関し、今後の改善に資するため学校評価（自己評価）を実施した結果は次のとおりです。

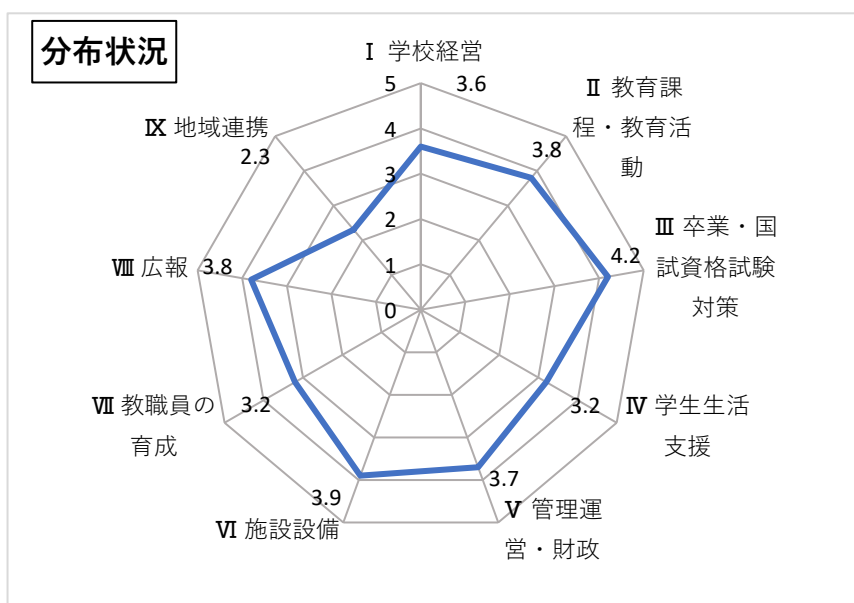
評価方法は、9分野（学校経営、教育課程・教育活動、学生生活支援など）42項目ごとに、教職員が各自、自己点検・自己評価（5段階）を行い、それぞれ平均点（小数点2位以下を四捨五入）を表示しています。

当該評価については、「学校評価委員会」において取りまとめを行い、課題等についての改善策等を協議するとともに、学校関係者からの意見を参考に、今後における具体的な対策を講じるなど、学校運営の向上に努めてまいります。

## 1 自己評価【看護学科】

評価方法：良い(5) ややよい(4) 普通(3) やや不十分(2) 不十分(1)

I 学校経営	3.6
II 教育課程・教育活動	3.8
III 卒業・国試資格試験対策	4.2
IV 学生生活支援	3.2
V 管理運営・財政	3.7
VI 施設設備	3.9
VII 教職員の育成	3.2
VIII 広報	3.8
IX 地域連携	2.3
平均	3.5



### 〈分野及び項目ごとの自己評価〉【看護学科】

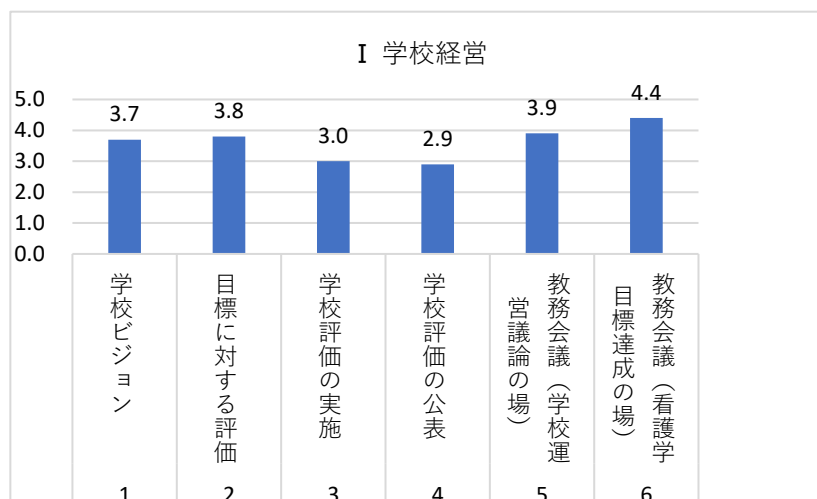
昨年度と比較して評価が上がった分野は、「III 卒業・国家試験資格試験対策」「VI 施設整備」「VIII 広報」でしたが、「魅力ある学校」を目指し、学生支援や入学生の確保に向けた各種取り組み等を強化した結果と考えています。

また、評価が下がった分野は「VII 教職員の育成」と「IX 地域連携」でしたが、いずれも近年のコロナ禍の中、集会等の機会が大幅に減少したことが要因と考えられます。

なお、各分野及び各項目の評価結果については、以下のとおりです。

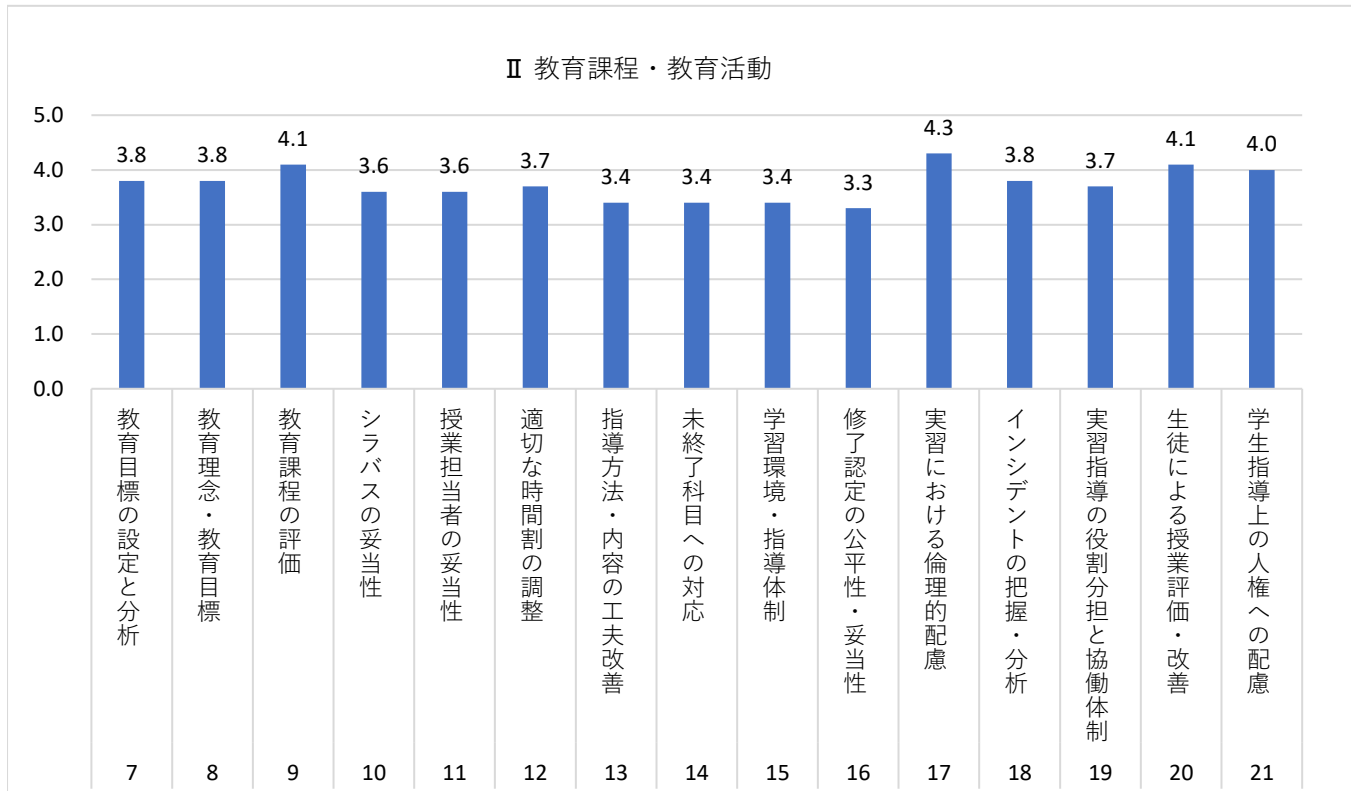
### I 学校運営

運営会議や教務会議などを定期的で開催し、目標やビジョンについて情報共有を図るとともに、教職員の意見を聞いたり話し合いをする場となっており、目標達成に向けた取り組みができるようになってきている。



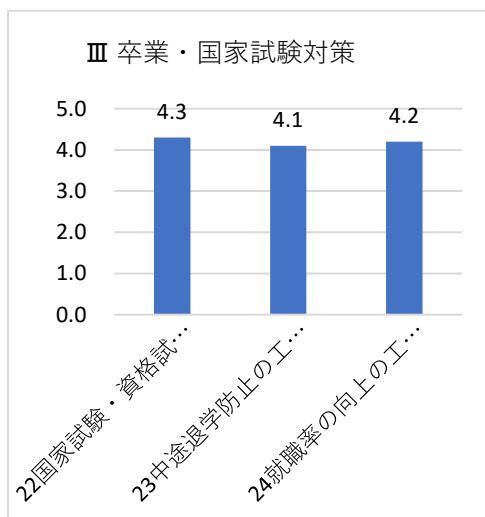
## II 教育課程・教育活動

令和5年度からのカリキュラム改正に併せ、学科全体で方向性の確認を行うなど、改善に向けた体制が整いつつある。また、技術チェックリストや各種アンケート等を実施するなど、学生の意見を取り入れた授業のあり方改善に努めている。さらに、実習指導にあたっての役割分担を明確にするとともに相互連携を図ることで学生の学びが深まるよう指導体制の強化に取り組んでいる。



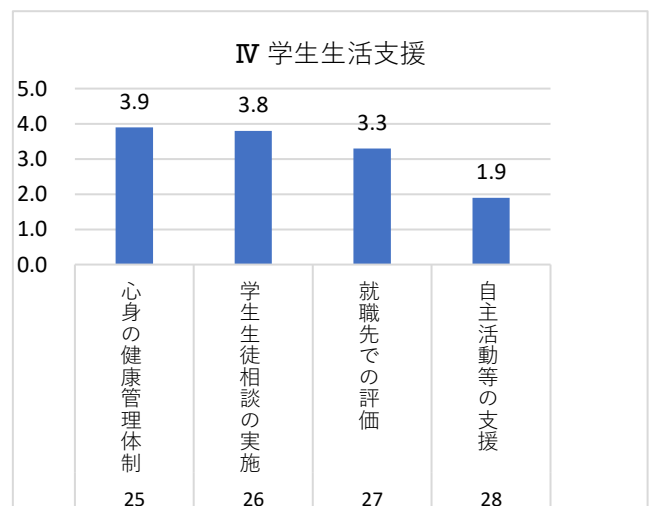
## III 卒業・国家試験資格試験対策

学生の適性に即した個別面談や各種情報の提供に加え、カウンセリングを通したきめ細やかな対応に努めるなど教員による支援、さらには、学生主体による学習への取り組みが見られるなど、全体へのシナジー効果があった。



## IV 学校生活支援

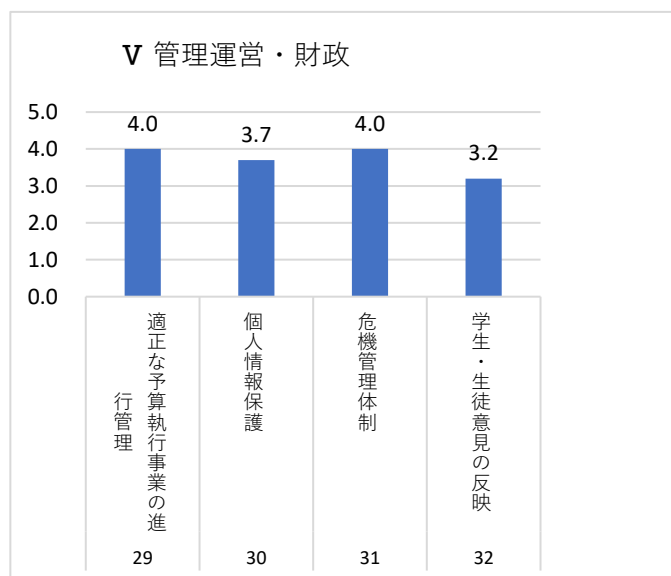
これまでの個別相談やカウンセリングの実施など側面的な支援に加え、今年度から新たに本校独自の奨学給付金制度を創設し直接的な支援を行うとともに、校内販売や食料品の配布など学生支援の充実を図ったが、評価項目が無いこと、また、コロナ禍で学生の自主活動自粛に伴い支援も無かったことから全体評価は低下した。



## V 管理運営・財政

予算案の段階から執行状況に至るまで「予算の見える化」を行ったことで、学校全体で情報を共有できた。

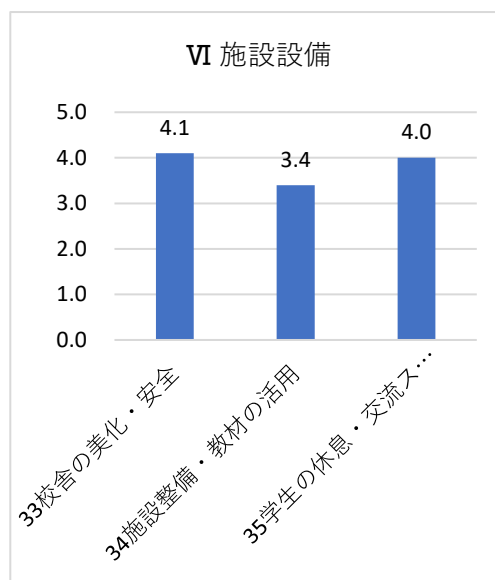
また、防災訓練の実施及び避難ルートの確認など適正な危機管理に努めた。



## VI 施設管理

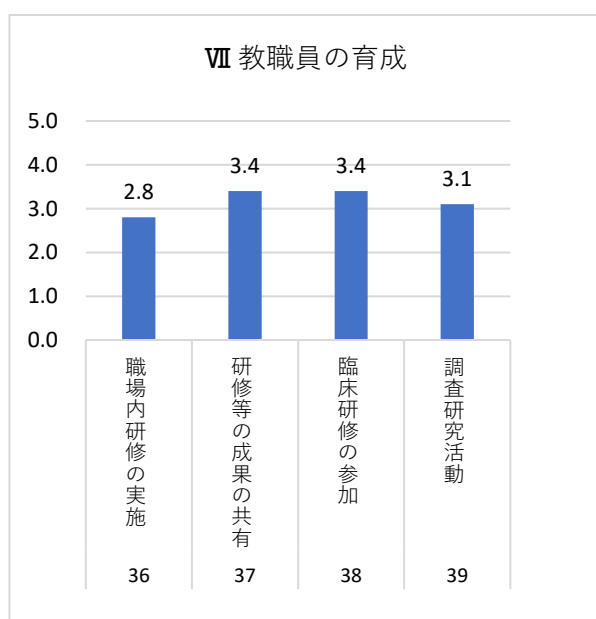
パーテーション撤去により1階学生ホールが利用しやすくとともに、自動販売機の内容見直しを行い学生生活の利便性向上を図った。また、定期的に除草など環境美化に努めた。

今後は、Wi-Fiなど遠隔授業に係る整備が必要。



## VII 教職員の育成

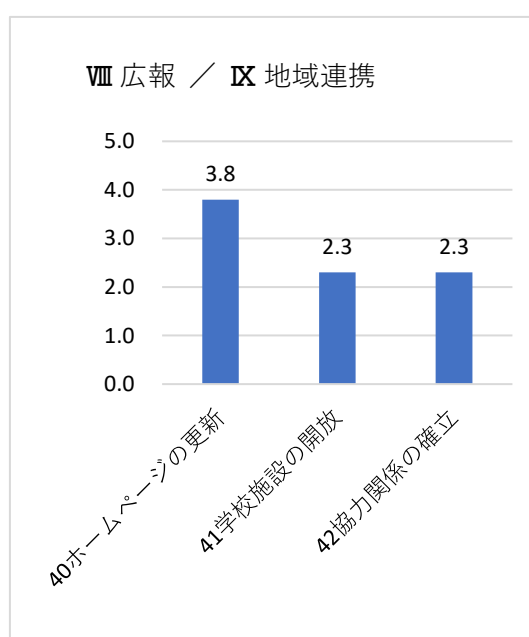
外部研修は昨年度と同様にオンラインでの開催がほとんどとなり参加者は少なかったが、受講内容は教務会等を通し適正に伝達されていた。



## VIII 広報 / IX 地域連携

質問項目はホームページについてのみだが、昨年から入学生募集に向けた広報を強化しており、一定の成果は得られているように感じる。

地域連携については評価が1番低かったが、行事の中止などコロナ禍の影響が大きいと考えられる。



## ◆ 今後に向けて ◆ 【学校全体】

評価は所属する組織の一員として課題も含め当事者意識を持って評価すべきであるが、意見のみで終わっているものもあるため、今後は評価の目的や視点を改めて周知することで、教育活動をはじめ組織としての質の向上に向けた示唆をすることを意識していきたい。また、自己点検・評価の時期を早め、ボトムアップに繋げていきたいと考えます。

なお、年間の振り返りや今後の検討についての記載については、現状を課題として捉え、今後に活かす方向性を示しているという点で有意義であると考えます。

## 2 学校関係者評価 【学校全体】

### [管理運営について]

#### I 学校運営 / V 管理運営・財政 / VI 施設管理 / VIII 広報 / IX 地域連携

○学校運営（財政）は昨年度に比べかなり改善しているが、引き続き、入学生の確保に向け、広報の強化及び学生支援の充実等の各種事業に取り組むこと。

○福島県内医師会立の看護専門学校（准看護学科）については、県医師会のワーキンググループにおいて統合も視野に、今後のあり方検討を進めていることから、それらの内容を注視していくとともに、「福島県看護専門学校協議会」等を通し各学校においても運営のあり方について考えていく必要がある。

○福島県離職者等再就職訓練事業の受託については、入学生の確保に係る社会人枠の拡大に向け重要な施策であることから、今後においても福島県やハローワークとの連携を図り、事業の拡充に努めること

○現在申請を検討している「高等教育無償化機関要件の確認承認」については、令和4年度の申請に向け準備を進めること。

○昨年度から実施の郡山医師会会員への寄附依頼については、新規事業である学校独自の奨学給付金や今後見込まれる施設整備等の重要な財源となることから、令和4年度においても継続して実施すること。

○病院奨学金や求人などについて情報を共有するとともに、学校通信「え～る！ -YELL-」を継続して発行するなど、学校の状況についても積極的に発信し、医師会会員である市内病院等との連携を図ること。

### [教育活動について]

#### II 教育課程・教育活動 / III 卒業・国家試験資格試験対策 / VII 教職員の育成

○今回の准看護学科におけるカリキュラム改正に際しては、外部講師である医師等との情報共有が遅れたことにより、新年度の指導内容の構築に多少の支障が生じたことから、次年度に予定されている看護学科における改正にあたっては、なるべく早い段階での情報共有に努めること。

○確保が難しくなっている臨地実習施設の依頼にあたっては、学校だけではなく学校運営委員会委員等を中心に、医師会会員と協力して対応する体制構築を図ること。

○看護師・准看護師の資格取得に向け、各資格試験対策を十分に行うこと。